

**R8 年度 看護栄養学部看護学科 総合型選抜
レポート試験 出題意図**

1. ねらい

課題文等を適切に読み取る読解力や理解力、複数の課題文等を整理・統合し考察する論理的思考力、看護職者を志向する者としての自分自身の考えを記述・表現する力を評価する。

2. 出題形式

- 1) レポート課題 1 題
- 2) 解答時間 120 分
- 3) 文字数 (800 字以内)

3. テーマ設定・内容 例

別紙 1・2 の課題文等の読み取りを踏まえて設定する「テーマ」・内容 例

「ロボットは看護を代替できるのか」

・少子高齢化による労働人口の減少が進む中、ロボットを含めたテクノロジー活用は医療者や介護者などの身体的負担や業務の効率化を支え、医療や介護システムを維持していく上でも重要となってくる。医療や介護でのロボットによる治療やケアの実用化も進む中、ロボットにより代替できるもの、代替ができないものとは何か。

「ロボットが看護することの倫理」

・少子高齢化による労働人口の減少がいわれる中、医療や介護でのロボットによる治療やケアの実用化も進んできている。ケアにロボットが導入されることによりリスクマネジメントも含め解消される得る倫理的課題もあれば、新たに生じる倫理的課題もある。介護現場でも高齢者とロボットとの交流もなされ、愛らしい容姿や動作からロボットは人の愛着の対象としての役割も果たしつつある。しかし、自らロボットを望む人もあるが、他者交流の代替として状況的に受け入れている実態もあるのではないか。

別紙 1 の読み取り 例

・介護ロボット等は、被介護者の入浴・食事・排泄・娯楽などの役割を果たし、健康状態をモニタリングするなど看護や介護を担う可能性がある。

・ロボットによるケアでは、愛情が感じられないと著者が紹介したアニメ内の看護学生は必死に訴えている。

・今や「ロボット介護」は、現実の問題として生じている。

・ロボット介護機器の活用による業務の効率化・省人力化は、今後のロボット技術展開戦略

の重要な柱である。

別紙 2 の読み取り 例

- ・少子高齢化の更に進行すること
- ・団塊世代が 2025 年に後期高齢者へ移行したが、10 年程度で更に 85 歳前後へ移行すること
- ・団塊ジュニア世代が 60 歳代に移行し、労働人口の急激な減少時代を迎える
- ・人口減少社会を迎えること